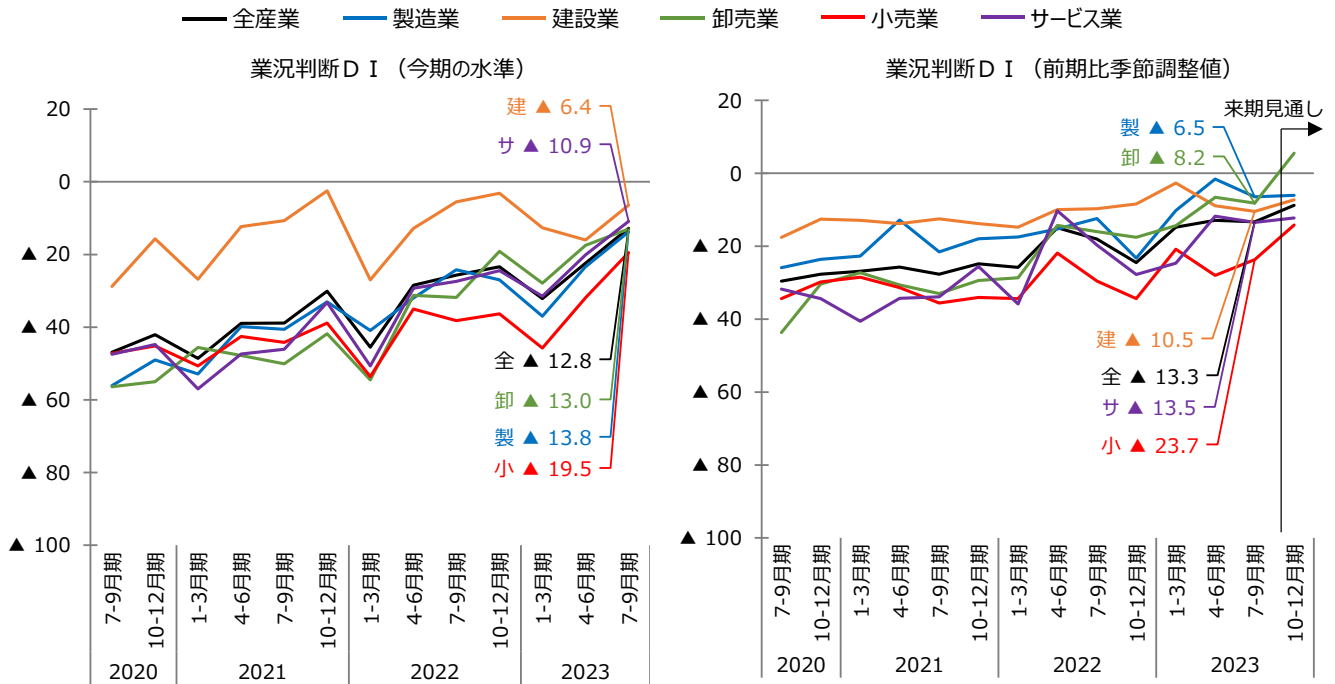


第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 北海道



1. 業況感

北海道地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より9.6ポイント増の▲12.8と2期連続して上昇した。産業別にみると、5産業すべてで上昇した。

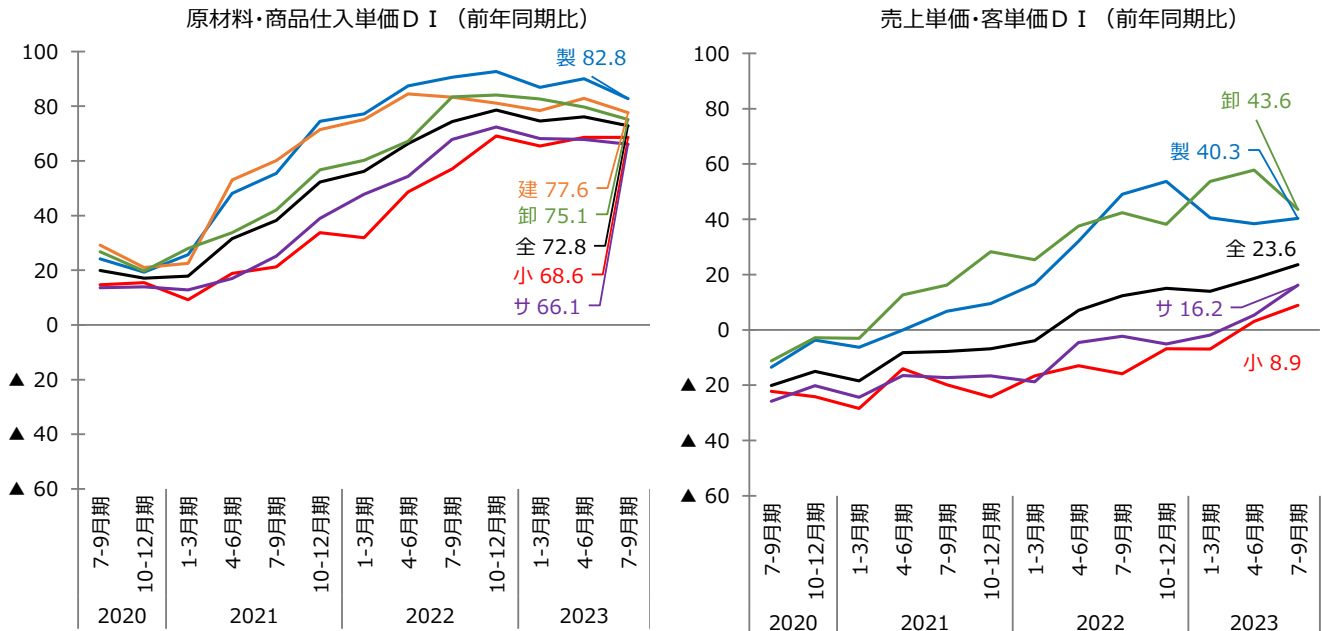


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より3.3ポイント減の72.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業で横ばい、製造業、建設業、卸売業、サービス業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より5.0ポイント増の23.6と2期連続して上昇した。産業別にみると、サービス業、小売業、製造業で上昇し、卸売業で低下した。



※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、北海道：739企業

※本資料の集計対象の都道府県は、北海道です。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 北海道

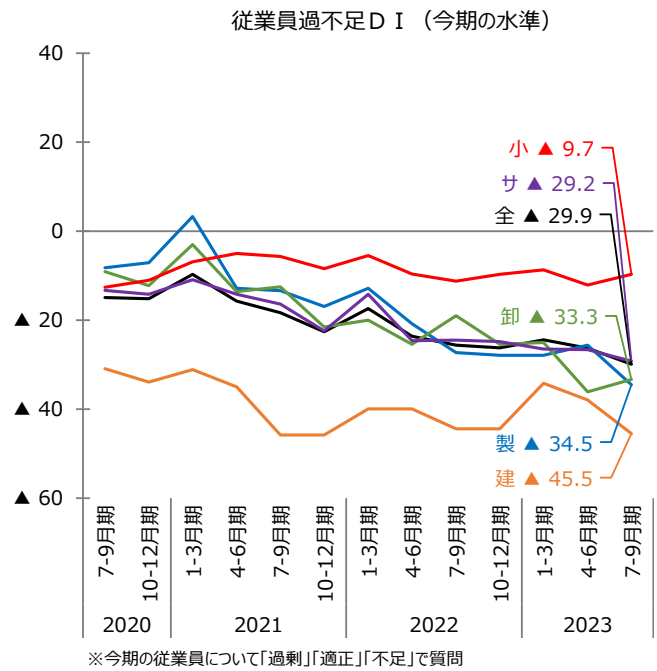
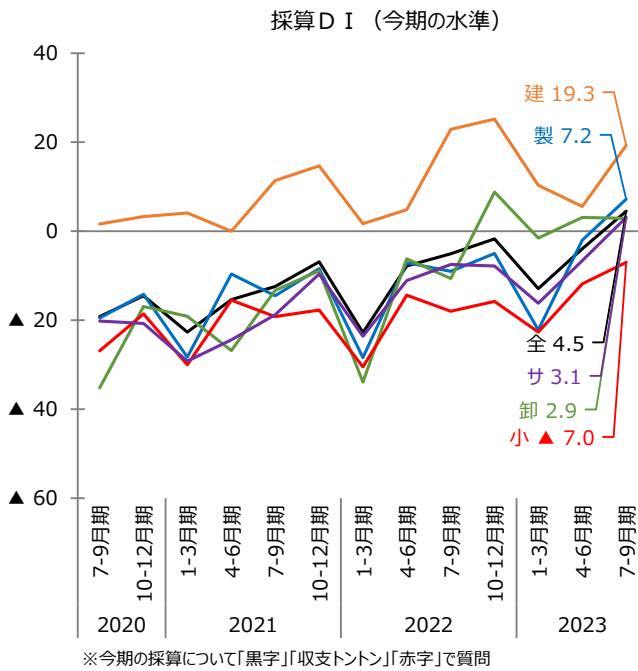


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より8.4ポイント増の4.5と2期連続して上昇した。産業別にみると、建設業、サービス業、製造業、小売業で上昇し、卸売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より3.6ポイント減の▲29.9と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇、製造業、建設業、サービス業で低下した。



4. 北海道の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	昨年より消耗品、燃料、生コンの値上げが複数回あり、値上げのタイミングに苦労した。また、石材の仕入が為替での取引となるため、こちらも値上がりし石材の種類の提案の幅が狭くなり、売りにくい状況となっている。	製造業 石工品製造業
	内部の人手不足に比べて、下請業者も人手不足であり、工事の受注が制限される現状である。受注も材料資材の上昇により、停滞している現状であり、官民間わず厳しい。先が見えない状況が続いている。	建設業 一般管工事業
	大企業ができないことは、我が社もできないが、大企業がやらないことを、いかに拾えるかに掛かっています。そのためにも、小さくても、強い組織を目指しています。	卸売業 その他の各種商品卸売業
	酷暑の影響で、主要顧客の高齢層が外出を控え、来店客が減少。物価高から、服飾の消費を控える人が増加。靴は修理の需要が増えて、商品の販売が不調。	小売業 かばん・袋物小売業
	コロナも落ち着き、イベントや行事も開催されるようになったため、営業売上自体は、多少増加した。しかし、まだなお、材料等仕入単価の上昇やエネルギー高騰の影響は大きく、資金繰りも難しい。	サービス業 中華料理店
見通し	度重なる原材料の高騰に加え、光熱費や燃料費等の負担額が増しているが、その全てを売上に転嫁できない。今後の状況も分からず、見積額の設定が難しい。	製造業 オフセット印刷業(紙に対するもの)
	民需・官需ともに、受注額が伸び悩み、特に、民需は引合いも弱いことから、下半期の業績悪化が予想されます。今年度になり、民間工事の規模も縮小しており、設備投資を行える取引先が、以前に比して、少ないと考えております。	建設業 一般土木建築工事業
	販売先により、増減の差が大きく、復調・不振の差が激しく、好転とまでは行かず、現況は厳しい。今期単価のアップは、順調に小売店には受け入れられたが、消費者にそのまま受け入れられるか、来季に向けての不安材料である。	卸売業 靴・履物卸売業
	業種によっては、コロナ禍前に回復しているが、物価高を背景に、実質所得は伸びていない。個人消費は、節約志向が強く、財布の紐は、ますますきつくなる要素が多い。販売方法の工夫等で乗り切りたい。	小売業 他に分類されない他の小売業
	需要は、コロナ前の水準に戻ったと感じる。今後、物価上昇で国内需要の減少が予想され、どの程度になるか、気掛かりである。	サービス業 他に分類されない娯楽業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

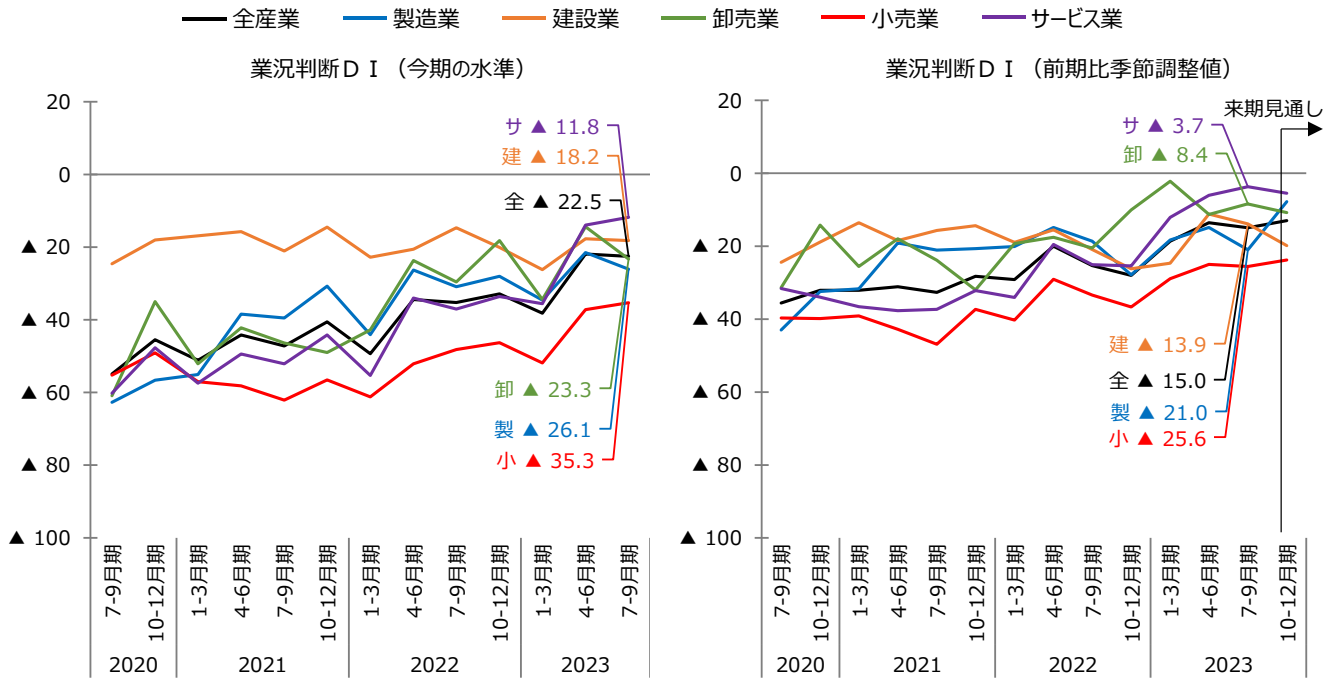
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 東北



1. 業況感

東北地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より0.6ポイント減の▲22.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業、製造業、建設業で低下した。

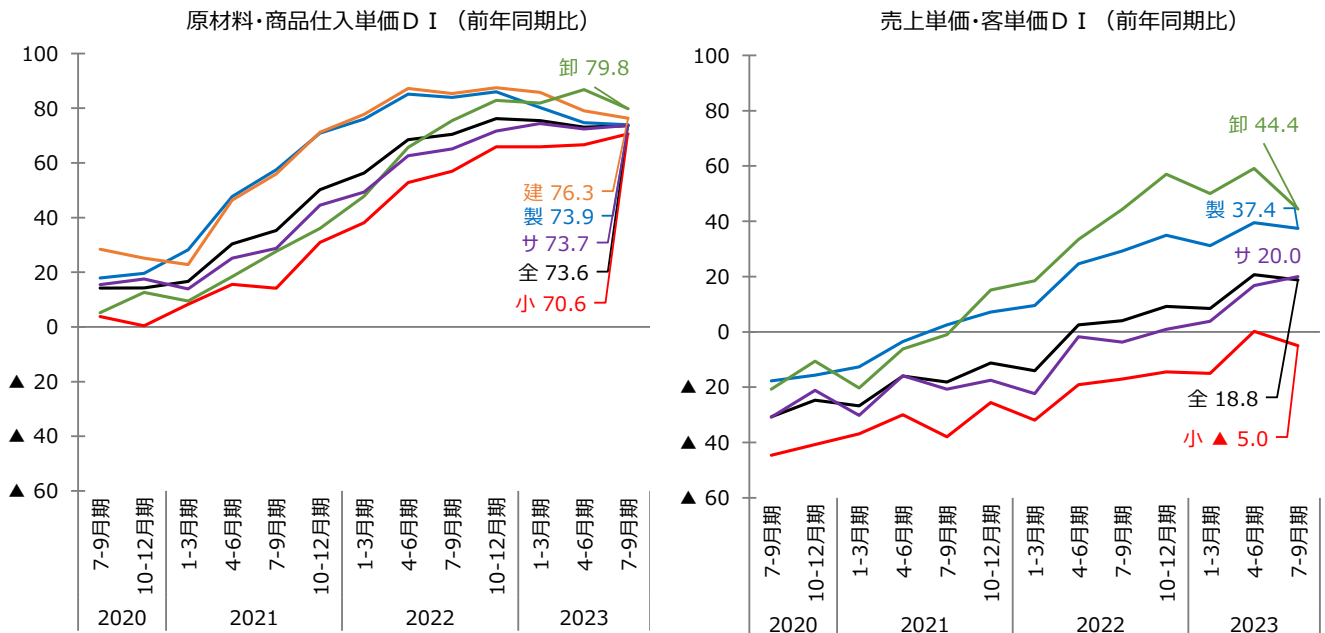


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の73.6と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、建設業、製造業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.9ポイント減の18.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、小売業、製造業で低下した。



※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

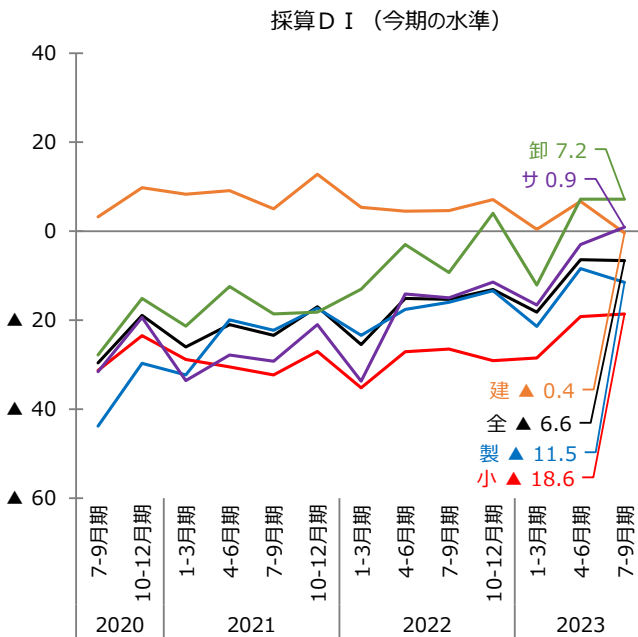
今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、東北：1,881企業

※本資料の集計対象の都道府県は、青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県です。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 東北

3. 採算

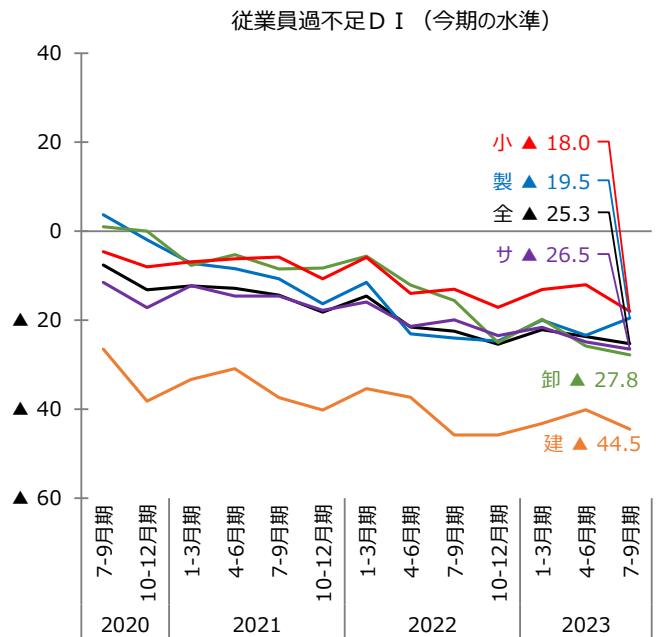
採算DIは、全産業で前期より0.2ポイント減の▲6.6と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業、小売業で上昇し、卸売業で横ばい、建設業、製造業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より1.6ポイント減の▲25.3と2期連続して低下した。産業別にみると、製造業で上昇、小売業、建設業、卸売業、サービス業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 東北の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	働き方改革を強く進めている。報酬アップ、年間休日数、有給取得率など増やしているため、生産性は落ちている。受注は好調だが、生産力が不足している。	製造業 建設用金属製品製造業(鉄骨除く)
	受注はあるが、熟練技術者の確保が難しく、工期がスムーズに進まない。建設業の深刻な課題である。	建設業 木造建築工事業
	仕入単価の上昇に、価格転嫁が追いつかない状況。需要の停滞もあり、価格競争が続いている。	卸売業 その他の建築材料卸売業
	物価高の影響が、じわりじわりと始めている。客数の増加の割には、購入単価を吟味している方が増え、販売単価を上げづらくしている。従業員の確保も難しくなっており、業務の見直しも考えている。	小売業 鮮魚小売業
	需要の停滞が回復せず、加えて、材料等仕入単価が全ての面で上昇しており、利益確保も難しいです。	サービス業 簡易宿所
見通し	原材料費及び水道光熱費が、軒並み上がっていることに加え、10月からの最低賃金引上げが重なり、繁忙期で、外部から人員を補充しても、利益がほとんど出ない状況になるので、大変辛い。	製造業 生菓子製造業
	熟練技術者が高齢になり、減少している。また、左官、板金等の職人も減少し、なかなか人材確保が難しくなっている。材料の価格も上昇し、今後の営業が心配です。	建設業 木造建築工事業
	例年、夏場は売上が落ちるが、9月からのシーズン前に、前倒しの注文も来ており、比較的堅調である。秋からは、シーズンであり、営業活動も、順調に推移すると思われる。	卸売業 寝具類卸売業
	我々の業種は、お出かけ、集まり等の目的があると、購入に繋がるケースが多い。最近、秋からの旅行等の目的で、相談されるお客さんもいて、いづれ好転する気配を感じている。	小売業 婦人服小売業
	去年と比較すると、8月はコロナも落ち着き、外食を利用する傾向にあるなど感じられた。一方、コロナの時に借入した返済が始まり、このまま売上が上がらないと、物価も高騰しているため、厳しい状況である。	サービス業 ラーメン店

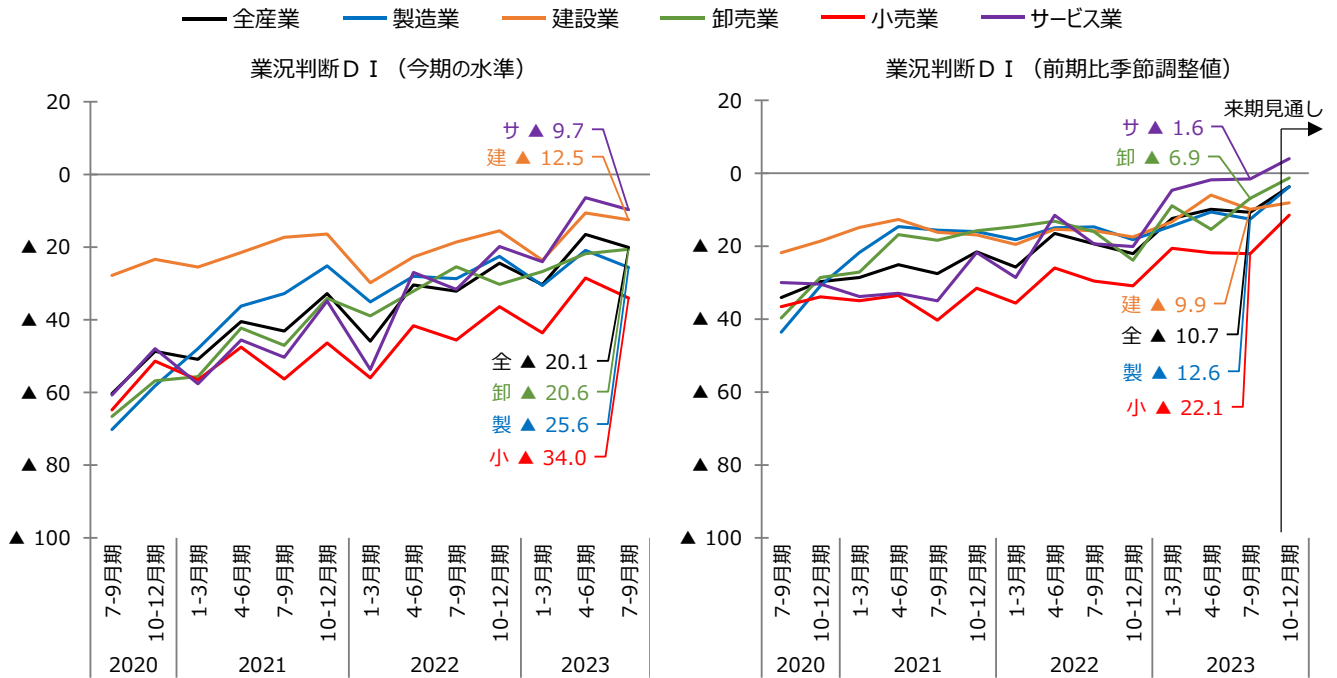
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 関東

1. 業況感

関東地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より3.6ポイント減の▲20.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業で上昇し、小売業、製造業、サービス業、建設業で低下した。

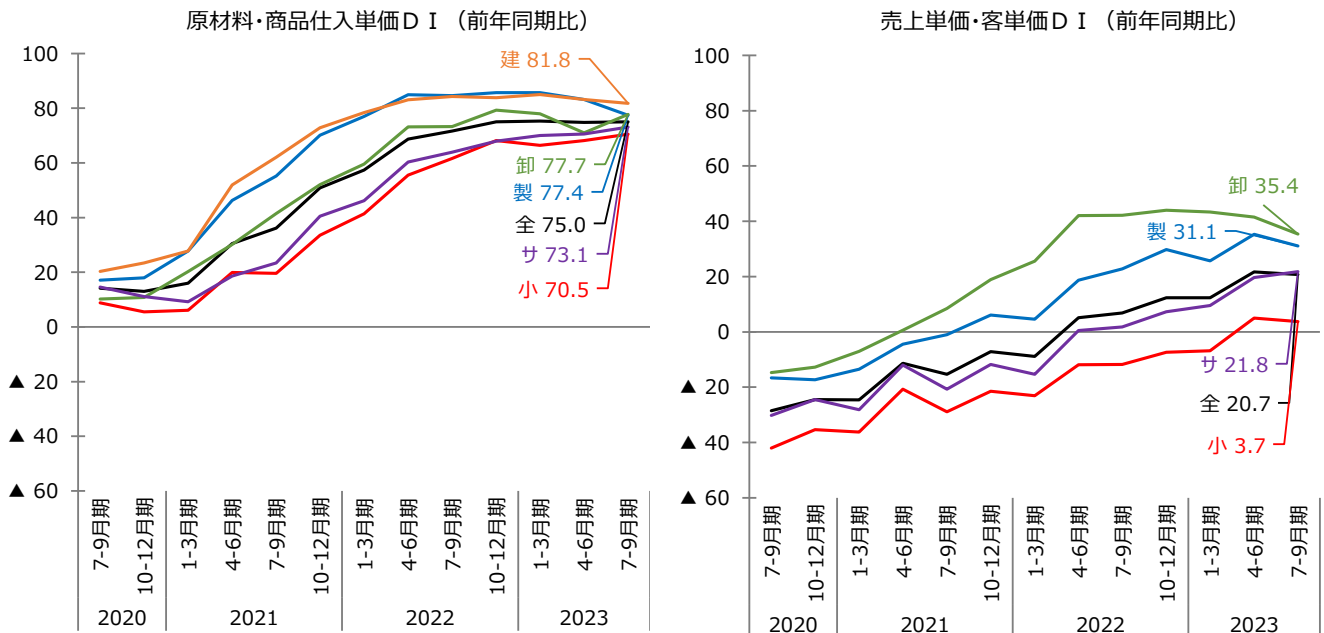


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の75.0と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、卸売業、サービス業、小売業で上昇し、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より1.0ポイント減の20.7と6期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、小売業で低下した。



※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、関東：4,912企業

※本資料の集計対象の都道府県は、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、山梨県、長野県、静岡県です。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 関東

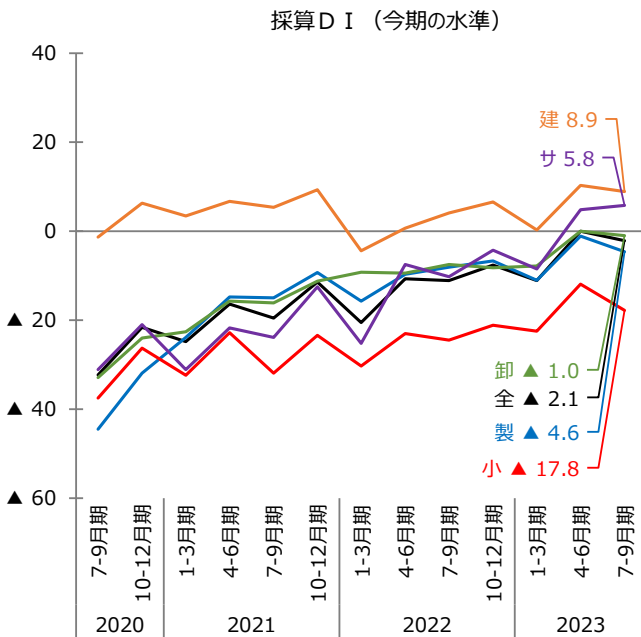


3. 採算

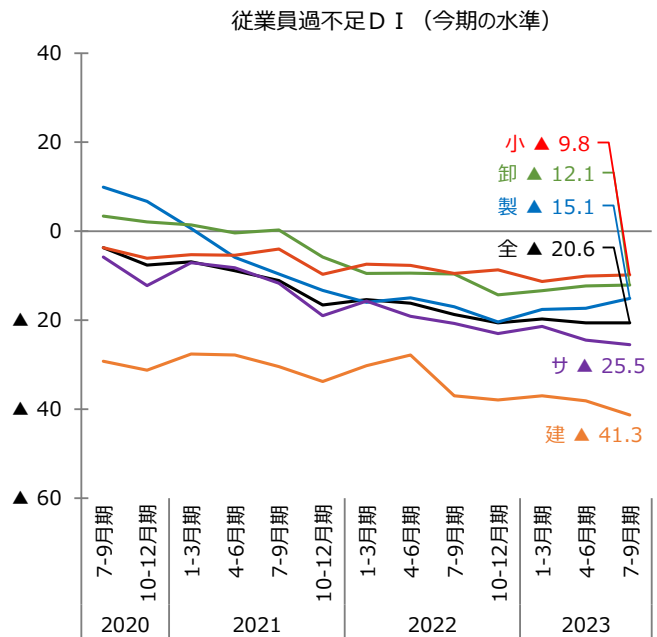
採算DIは、全産業で前期より2.1ポイント減の▲2.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、製造業、建設業、卸売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より横ばいの▲20.6となった。産業別にみると、製造業、小売業、卸売業で上昇し、建設業、サービス業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 関東の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	猛暑等で季節需要が増えたが、四季が曖昧なためなのか、生産スケジュールが読めない。情報収集で、臨機応変に対応する必要があると感じる。働きやすい環境作りや賃上げは必至の課題。	製造業 織物整理業
	受注額の減少と、材料価格の値上げ、材料入手難が続き、利益が下がり気味です。高齢化に伴い、従業員の退職が続き、技術者（大工）の確保が難しい。	建設業 木造建築工事業
	物価の高騰が続く中、高品質・高価格帯の商品を主力とするため、需要が伸びていないと考えられる。	卸売業 事務用機械器具卸売業
	コロナ明けの感覚があり、イベントの数が増え、人の動きが活発になっている実感がある。ただし、消費者のお金の使い方が限定的。普段は節約傾向にある。特に嗜好品は、売れ方が変わってきている。	小売業 食肉小売業（卵、鳥肉を除く）
	国の補助金を活用したシステム構築や、企業のIT投資が積極的になり、業績が回復している。需要の先食いとも考えられるが、ECによるオンライン化の対応や生産性向上のため、新たなWEBシステムの追加投資が必要である。	サービス業 パッケージソフトウェア業
見通し	直近では、原材料など的高騰を、商品の価格に転嫁する値上げが成功しているが、その影響で、物量は大幅に減少しており、今後、更なる円安や原材料の高騰が続くと、再値上げを打ち出すのは、非常に厳しいと感じている。	製造業 清酒製造業
	材料の高騰に加え、ガソリン高、人件費も上がっている。少しずつ利益を出すには、厳しい状況が続いている。コロナ融資の返済も始まり、今後も、資金繰りが厳しくなるのは必然となる。	建設業 内装工事業
	建築材料高騰により、公共工事不落が発生している。それと同事に、建設コスト上昇による、見合せもあり、受注は減少している。現在、仕事量の見通しは、立っていない。	卸売業 電気機械器具卸売業（家庭用電気機械器具を除く）
	国内の様々な商品価格の高騰の影響は、当店の取扱品も同じで、販売価格を上げて、対応しています。お客様も、納得していただけていますが、このまま物価が上がると、購買意欲の低下及び売上減少は、免れないと思う。	小売業 花・植木小売業
	全国旅行支援の縮小と、光熱費の高騰、食材仕入、消耗品の高騰が、大きく影響している。単価アップをしたが、追いついていない状況。猛暑が続いているが、販売戦略で、今後の収客に期待したい。	サービス業 旅館、ホテル

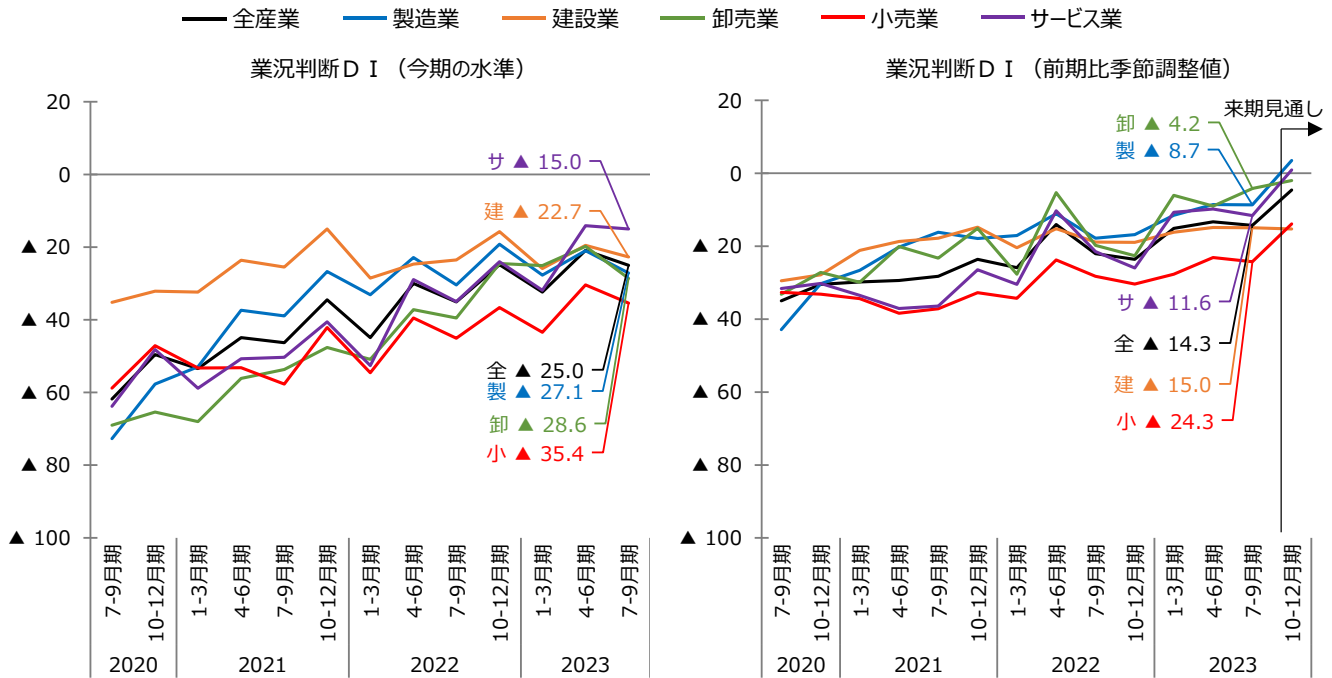
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 中部

1. 業況感

中部地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より4.1ポイント減の▲25.0と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。

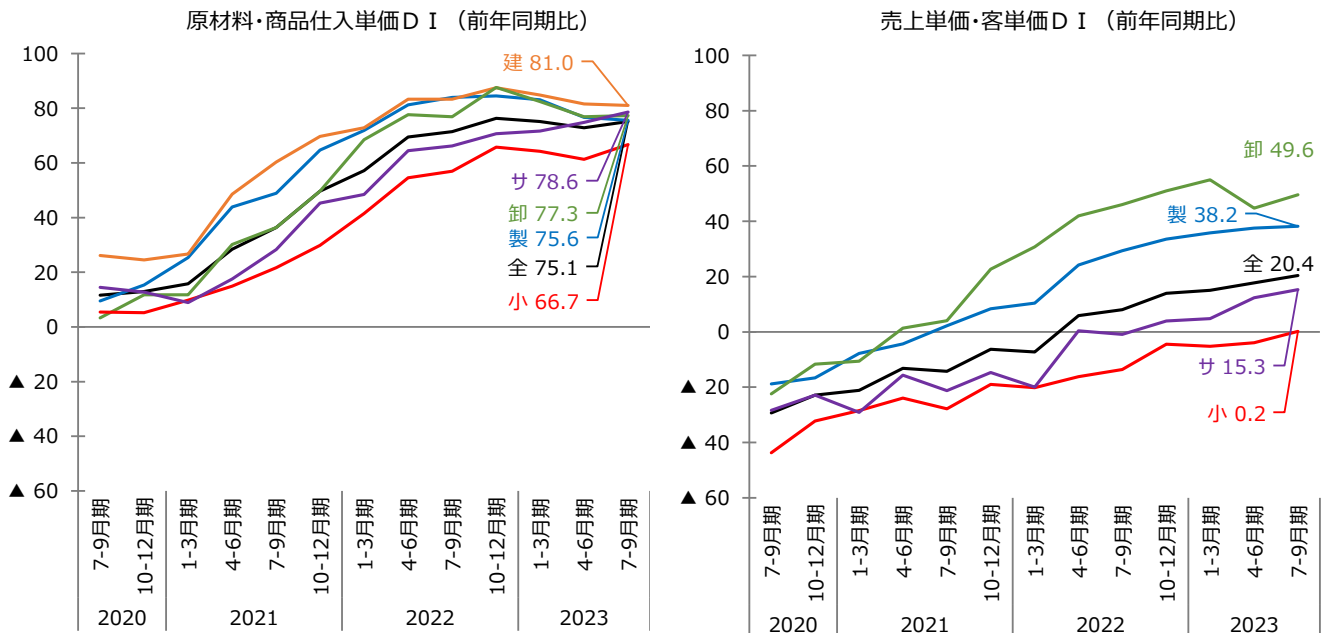


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より2.3ポイント増の75.1と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業、卸売業で上昇し、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.7ポイント増の20.4と6期連続して上昇した。産業別にみると、4産業すべてで上昇した。



※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、中部：2,314企業

※本資料の集計対象の都道府県は、富山県、石川県、岐阜県、愛知県、三重県です。

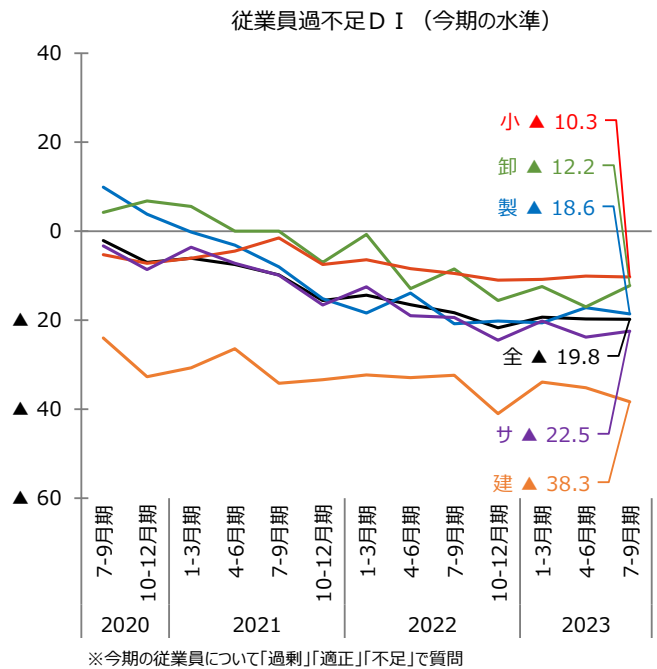
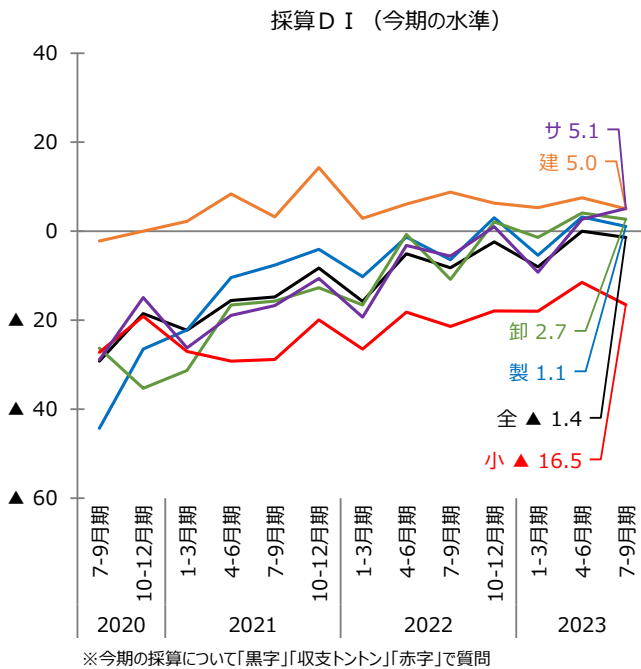
第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 中部

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より1.4ポイント減の▲1.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、サービス業で上昇し、小売業、建設業、製造業、卸売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.1ポイント減の▲19.8と2期連続して低下した。産業別にみると、卸売業、サービス業で上昇、建設業、製造業、小売業で低下した。



4. 中部の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	資材高騰により、建築着工数が、かなり減少しており、受注競争が、激しくなっています。電気代をはじめ、全ての原材料が前例を見ない幅で値上りしていますが、受注単価に転嫁することが難しく、収益確保が厳しい。	製造業 木製家具製造業（漆塗りを除く）
	建築従事者の高齢化に合わせ、インボイス等の社会状況を背景に、廃業や事業転換をする技術者・社が増えていて。弊社でも、社員の高齢化により、再雇用をしても、人手が足りない状況である。	建設業 建築工事業（木造建築工事業を除く）
	ここ数年のうちに、メーカーの生産能力が大幅に減少し、商品確保が難しくなり、必然的に過剰な在庫を持たなくてはならない。それ以前に、商品の入荷が遅く、商機を逸している状況です。コロナ後の価値観に合わせた対応が課題。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	原材料の値上がりにより、仕入価格が大幅に上昇したため、販売価格を値上げした。売上金額は上昇しているが、仕入価格も上がっているため、収益は変わらない。販売価格上昇に伴い、販売数量は減少している。	小売業 その他の各種商品小売業
	業種的に、賃上げ原資確保のための価格転嫁は難しいものの、自社努力等により、賃上げを実施できている。定期昇給によるベースアップに加え、ボーナス支給額の増加を行った。	サービス業 不動産代理業・仲介業
見通し	自動車関係は、4月より需要が回復してきたものの、F A関係は需要が停滞している。工作機など、中国や台湾などの不況に起因し、回復には、1年以上の期間を要すると考える。	製造業 アルミニウム・合金プレス製品製造業
	エネルギー価格高騰により、経費が増加している。契約後に、費用が増えることにより、利益にも影響が出ることが懸念される。	建設業 土木工事業（別掲を除く）
	コロナ禍の落ち着いたきで、若干出荷は増えているが、原材料等のコストが上昇しており、まだ回復感はない。今後の為替動向、原油等の動向により、市況の回復は、一服することが懸念される。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	コロナ禍が収束し、祭りやイベントなどが開催されるようになったので、それに合わせて業況も良くなっていくと思われる。	小売業 菓子小売業（製造小売）
	4月より、メニュー価格を上げたことで、客単価が上昇。そして売上上昇につながっていますが、仕入の上昇が止まらず、原価が上がり、最低時給も上がることにより、利益は横ばいになっていると考えられます。	サービス業 その他の専門料理店

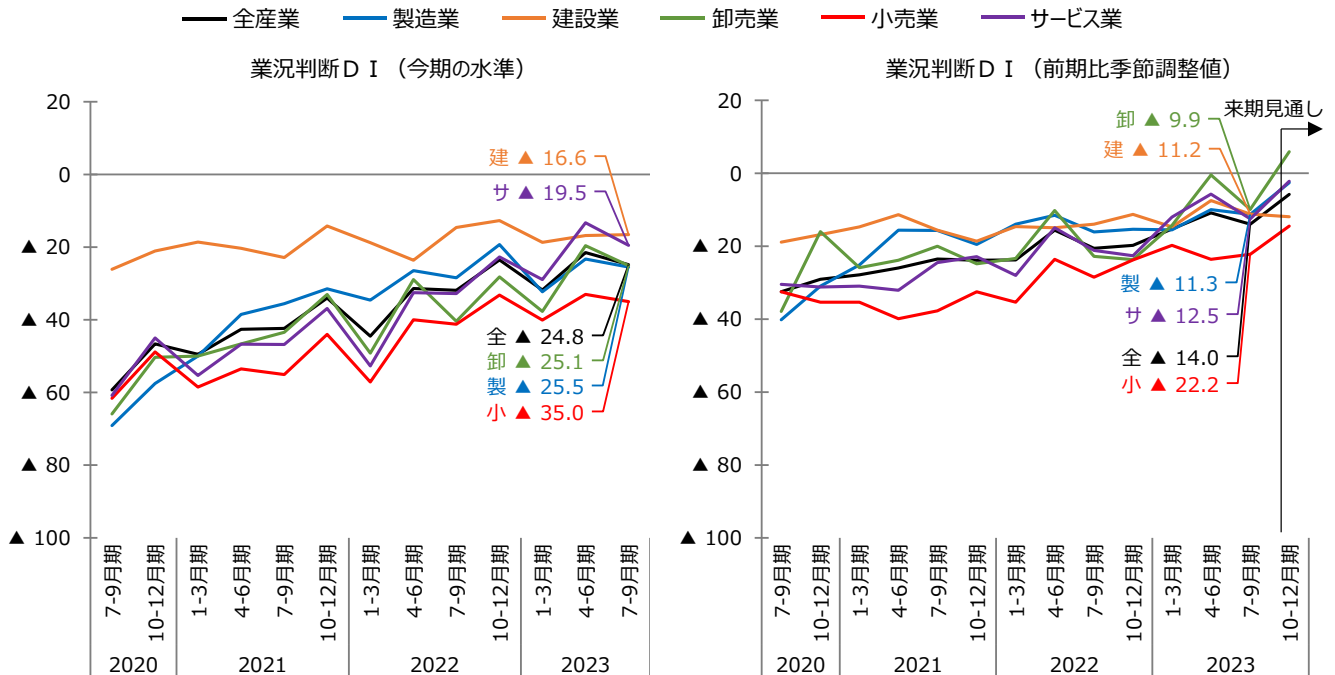
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 近畿

1. 業況感

近畿地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より3.3ポイント減の▲24.8と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、サービス業、卸売業、製造業、小売業で低下した。

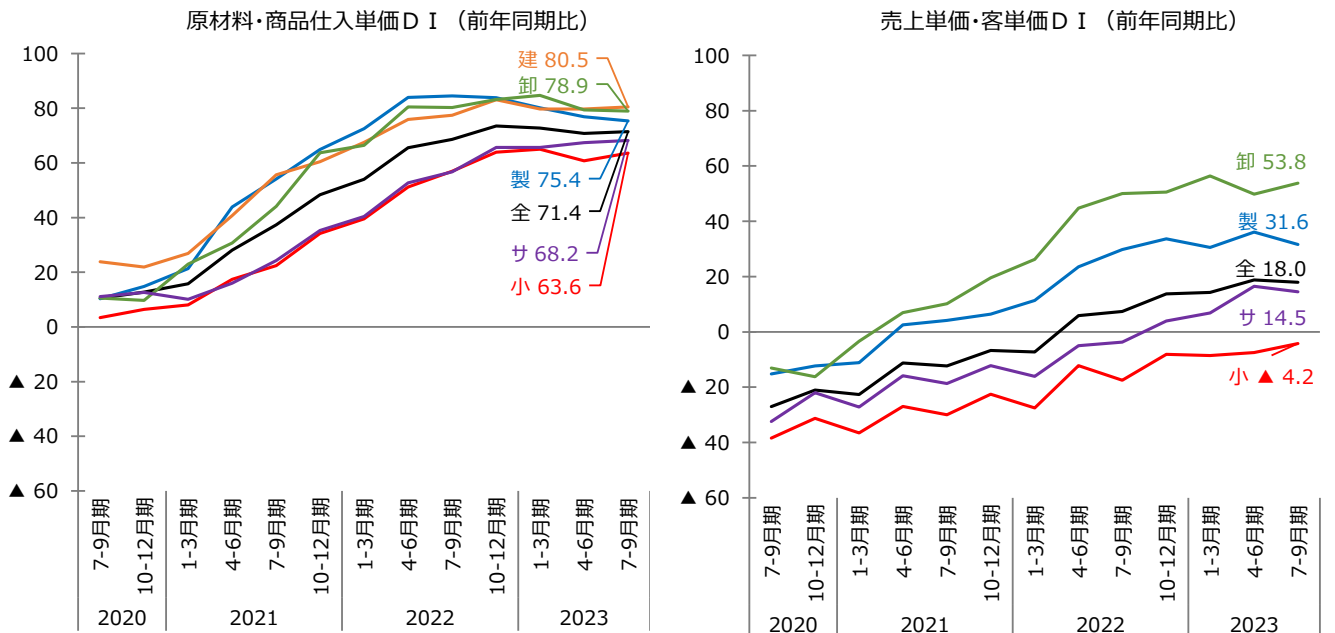


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年4-6月期）と比べて、「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.6ポイント増の71.4と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、建設業、サービス業で上昇し、製造業、卸売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の18.0と6期ぶりに低下。産業別にみると、卸売業、小売業で上昇し、製造業、サービス業で低下した。



※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

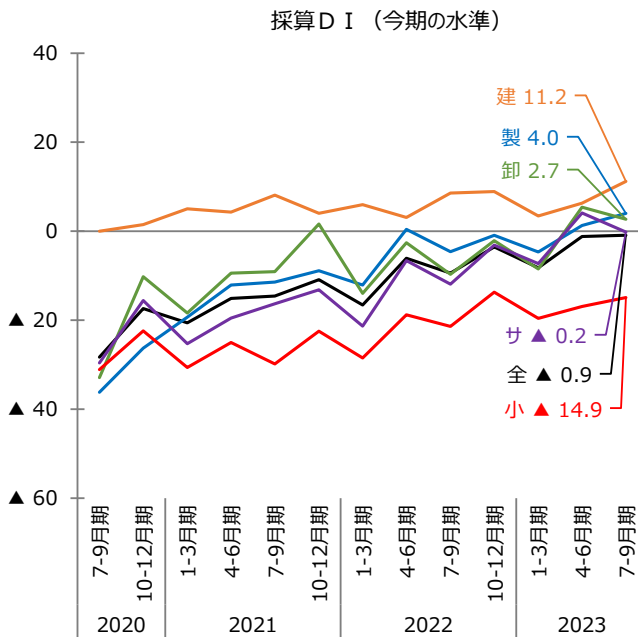
今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、近畿：2,525企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福井県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県です。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 近畿

3. 採算

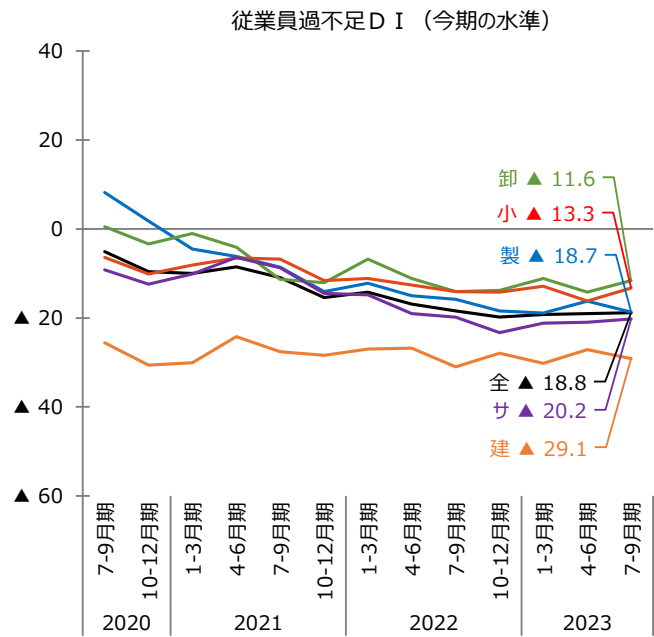
採算DIは、全産業で前期より0.3ポイント増の▲0.9と2期連続して上昇した。産業別にみると建設業、製造業、小売業で上昇し、サービス業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の▲18.8と3期連続で上昇した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、建設業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 近畿の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	熟練技術者の確保のために、外国人技能実習生の採用を中止し、日本人メインの採用に戻した。従業員は増えたので、個人のスキルアップが課題となっている。	製造業 <small>その他の工業用プラスチック製品製造業(加工業を除く)</small>
	資材価格の上昇による、住宅価格の上昇により、受注やお客様の動きが悪いように感じる。	建設業 <small>大工工事業(型枠大工工事業を除く)</small>
	仕入単価の上昇、その他コストアップに対して、販売単価を十分上げられていない。販売先は販売価格に対し、非常にシビアで、値上げに、非常に時間がかかっている。	卸売業 <small>その他の身の回り品卸売業</small>
	気温が高く、好天が続いたため、水物等が好調で、売上上昇になっています。人件費、電気料の上昇で、利益的には、厳しい状況です。	小売業 <small>コンビニエンスストア(飲食品を中心とするものに限る)</small>
	仕事量は戻りつつあるが、運送業には一番ダメージの大きい燃料高騰が続いている。仕事に見合った運賃の交渉が、いつになっても成立しないことが、黒字に繋がらない原因である。	サービス業 <small>一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)</small>
見通し	昨年から、原材料の上昇に伴う販売価格の値上げも実施しておりますが、今後、更なる価格の上昇難も、感じております。顧客離れが起きると、売上低下という結果になるため、今後の売上不振に、不安もあります。	製造業 <small>豆腐・油揚げ製造業</small>
	材料単価、仕入単価の上昇が止まらず、施工単価が上昇しているため、新築の需要に停滞が見られる。インボイス制度の導入もあり、下請単価の上昇も見込まれるため、先行きが不透明となっている。	建設業 <small>一般土木建築工事業</small>
	円安の状況がいつまで続くのか、為替の影響が深刻。今以上に、コストが上がれば、転嫁するにも限度があり、業績に大きく影響する。	卸売業 <small>その他の身の回り品卸売業</small>
	建設関連は、依然、仕事が少ないように感じる。値上げは落ち着いてきたと思われるが、為替、輸送コスト高の影響を受け、値上げするメーカーが、9月からまた増えてくる傾向になりそうです。	小売業 <small>建築材料小売業</small>
	今期、来期ともに、好転はしますが、あくまでこれまでの非常に厳しい状況からの好転です。今後、最低賃金の上昇に伴い、人件費の上昇も避けられないことから、更なる好転を目指す必要がある。	サービス業 <small>学習塾</small>

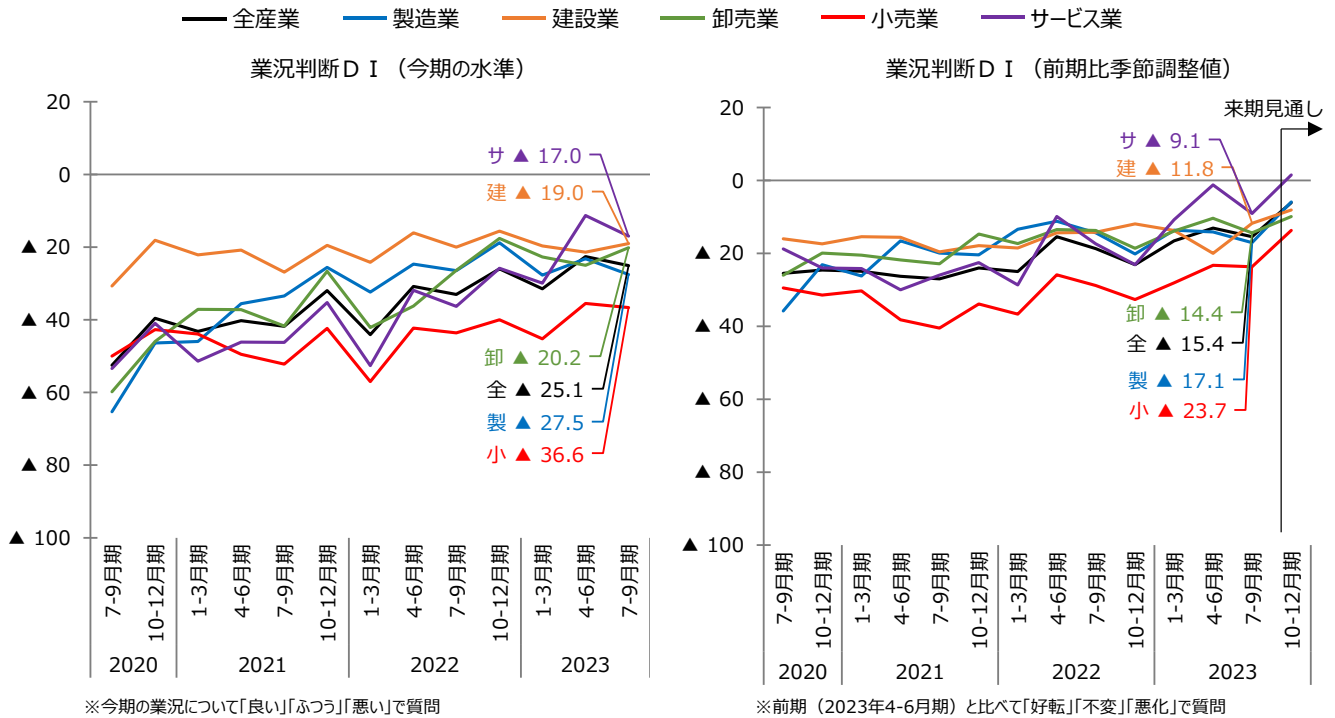
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 中国

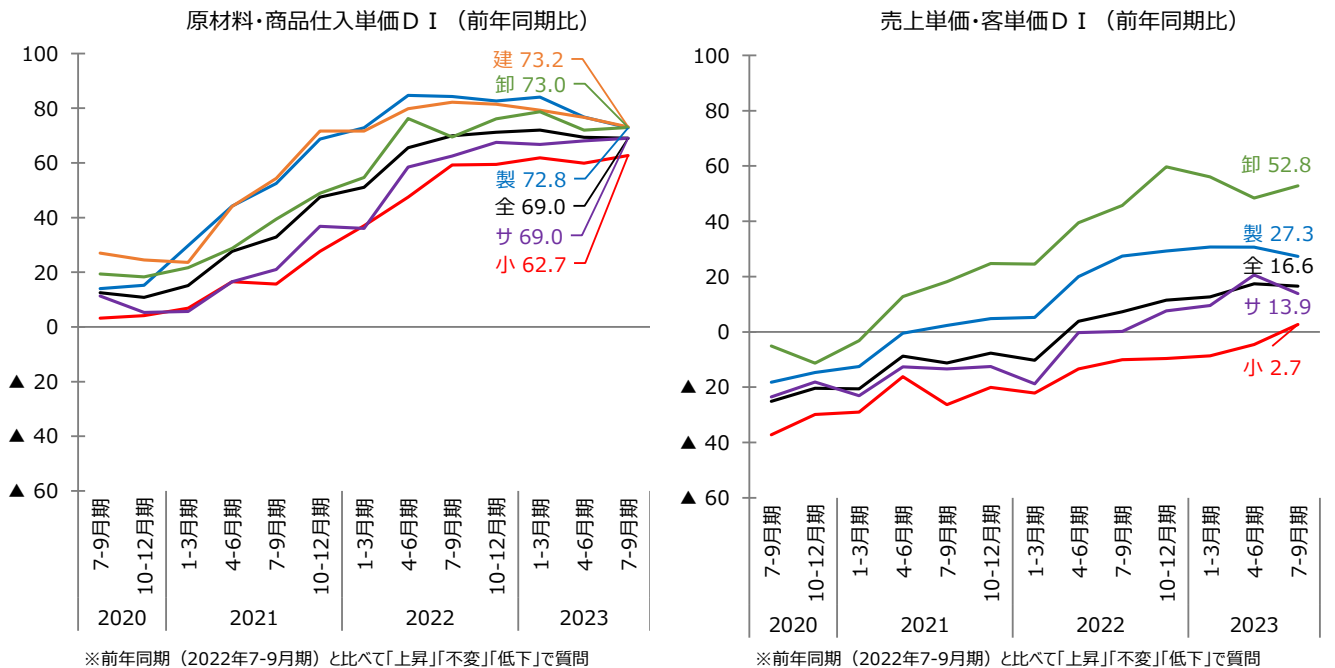
1. 業況感

中国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より2.5ポイント減の▲25.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、サービス業、製造業、小売業で低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.4ポイント減の69.0と2期連続して低下した。産業別にみると、小売業、卸売業、サービス業で上昇し、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.8ポイント減の16.6と6期ぶりに低下した。産業別にみると、小売業、卸売業で上昇し、サービス業、製造業で低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、中国：1,673企業

※本資料の集計対象の都道府県は、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県です。

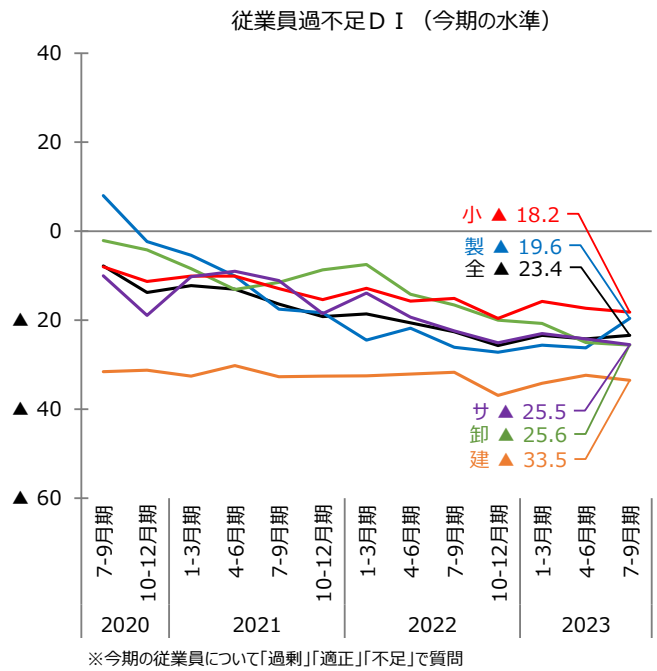
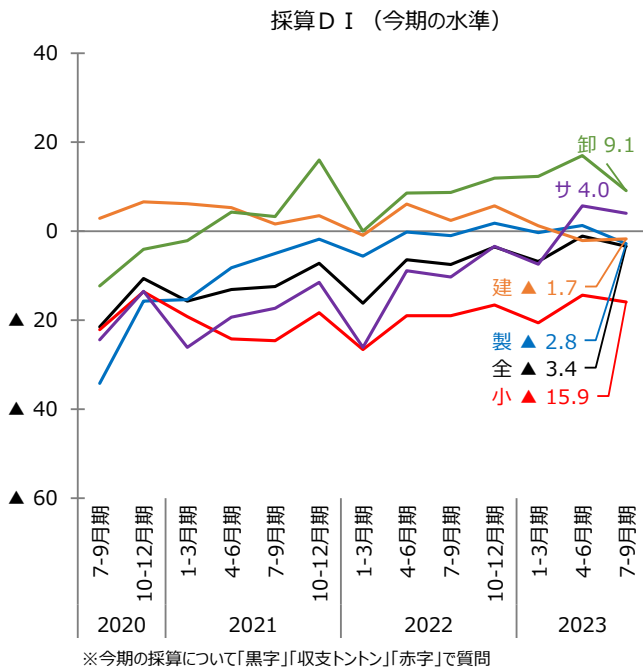
第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 中国

3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の▲3.4と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、製造業、サービス業、小売業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.8ポイント増の▲23.4と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、製造業で上昇し、サービス業、建設業、小売業、卸売業で低下した。



4. 中国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	天候（台風、水害、高温による生産不足など）の影響は大きく、原材料の仕入価格は高めで推移しており、更に製造コストや発送運賃も上昇していることから、収益の確保に悩んでいる。	製造業 野菜漬物製造業（缶詰、瓶詰、つぼ詰を除く）
	原油価格や物価の高騰により、リース機械や材料まで値上がりし、経費が多かかっている。現場を早く終わらせるための人手も不足し、短期間での完成が難しく、経費削減も難しい。	建設業 一般土木建築工事業
	売上は、大きく伸びない中、販売管理費を一定程度、抑制することで、業績を維持している。	卸売業 その他の化学製品卸売業
	イベントや地域の祭りなどは、コロナ以前の水準に近づいてきた。個人の消費行動は、物価の上昇の影響を受け、非常に財布のひもが固い状況にあり、必要なものは値段が高くなっても購入するが、余分なものは買わない傾向。	小売業 各種食品小売業
	コロナ5類移行で、人出が戻りつつある。宴会等で、売上も上昇。課題は、人手不足でサービスが行き届かないこと。	サービス業 日本料理店
見通し	原材料価格の高騰などにより、販売価格の改定を2年連続で行ったが、材料価格や輸送高騰の影響による、価格改定の可能性がある。	製造業 プラスチック板・棒製造業
	仕事が急に増加したことにより、人手不足となり、従業員・外部人材を探したが、なかなか確保するのが困難だった。中でも、熟練した職人を見つけるのは、とりわけ困難であった。材料費外注費の高騰もあり、今後も厳しい見込み。	建設業 建築工事業（木造建築工事業を除く）
	取引終了となった企業があり、売上高は減少したが、体制見直しにより、業況は落ちずに済んだ。ガソリン代の上昇が、経費増加になっている上、最低賃金のアップにより、より経費が増えることとなり、負担が大きい。	卸売業 酒類卸売業
	様々なコスト増（物価高）が、業況に悪影響を与えている。販売価格へ転嫁したいが、各一般家庭の節約志向が強まる中で、簡単にはできず、先行きが不安。	小売業 古本小売業
	コロナの警戒感が和らぎ、また、中国の団体旅行が解禁されたこともあり、来期は、業況が良くなると見込んでいる。しかし、人材難と、設備投資に資金を回す程の余力が、まだ無いので、今後、いかに資金確保するかが課題となる。	サービス業 リゾートクラブ

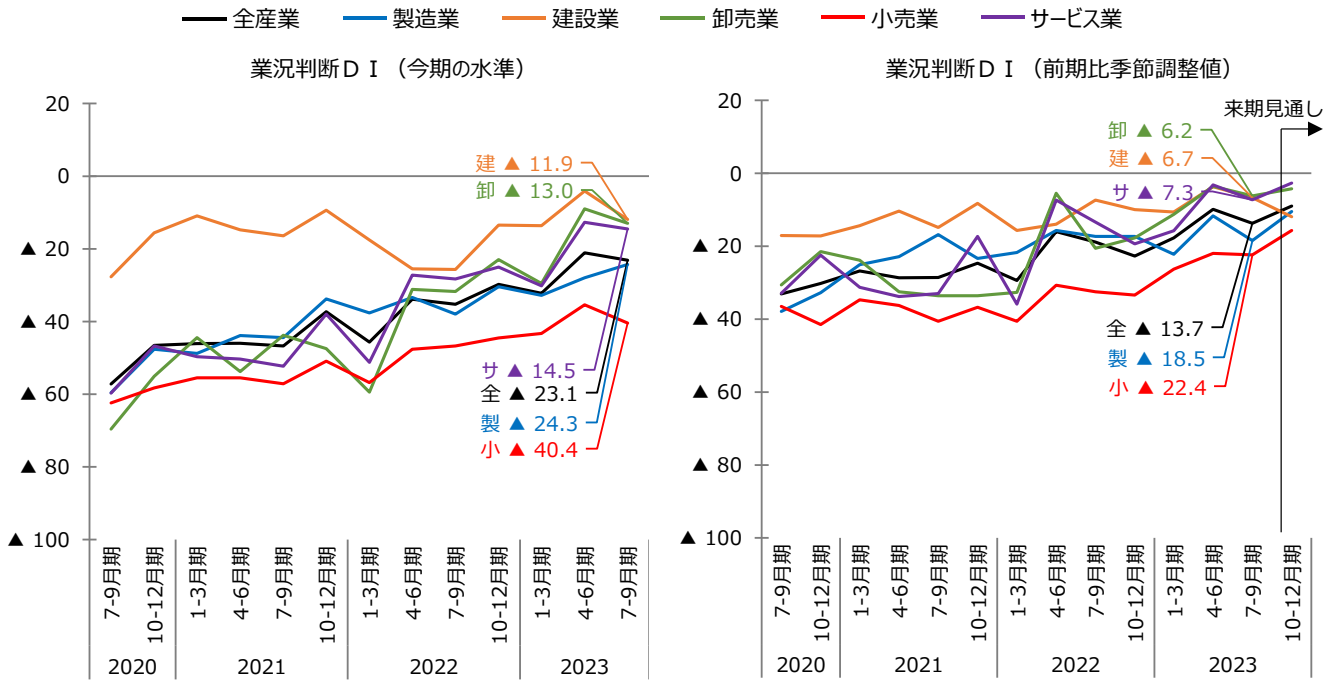
※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 四国

1. 業況感

四国地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より2.0ポイント減の▲23.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業で上昇し、建設業、小売業、卸売業、サービス業で低下した。

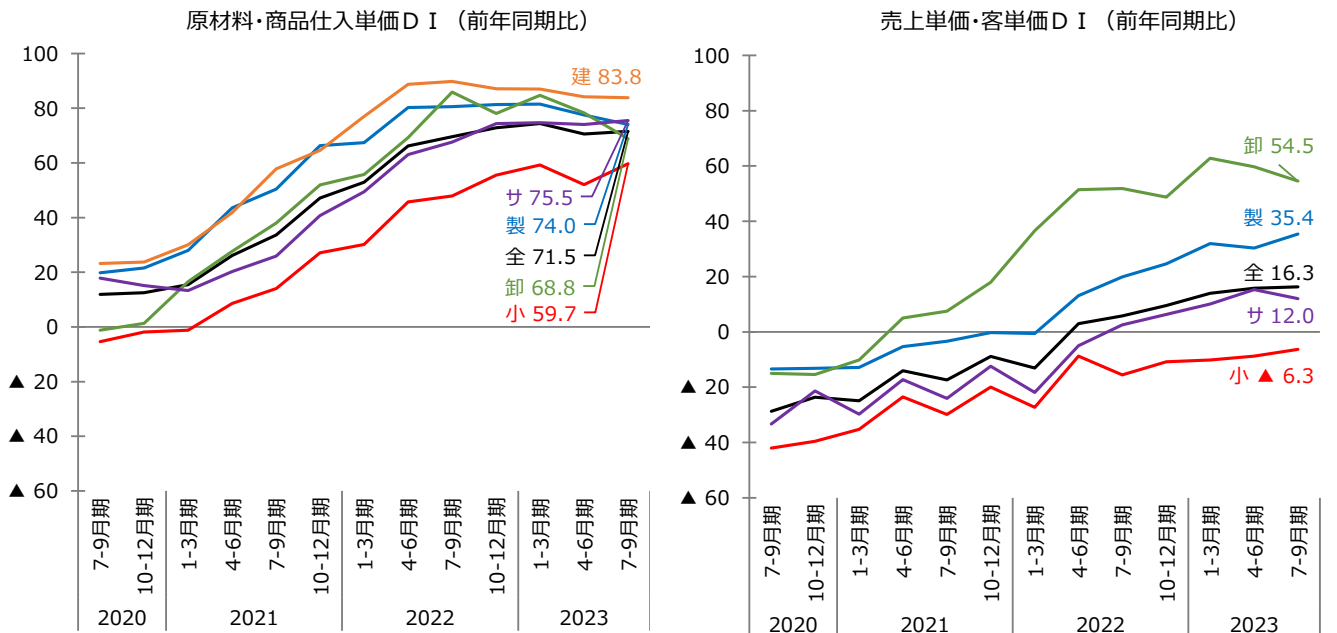


※今期の業況について「良い」「ふつう」「悪い」で質問

※前期（2023年4-6月期）と比べて「好転」「不変」「悪化」で質問

2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.9ポイント増の71.5と2期ぶりに上昇した。産業別にみると、小売業、サービス業で上昇し、卸売業、製造業、建設業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より0.5ポイント増の16.3と6期連続して上昇した。産業別にみると、製造業、小売業で上昇し、卸売業、サービス業で低下した。



※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

※前年同期（2022年7-9月期）と比べて「上昇」「不変」「低下」で質問

<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、四国：1,242企業

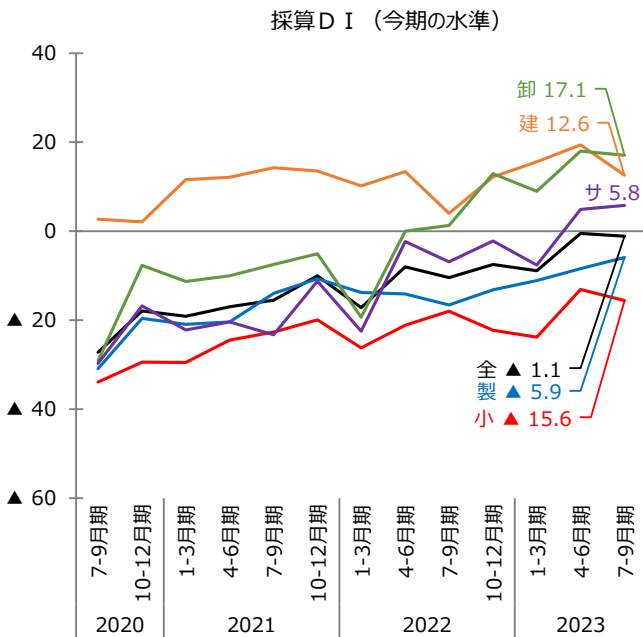
※本資料の集計対象の都道府県は、徳島県、香川県、愛媛県、高知県です。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 四国



3. 採算

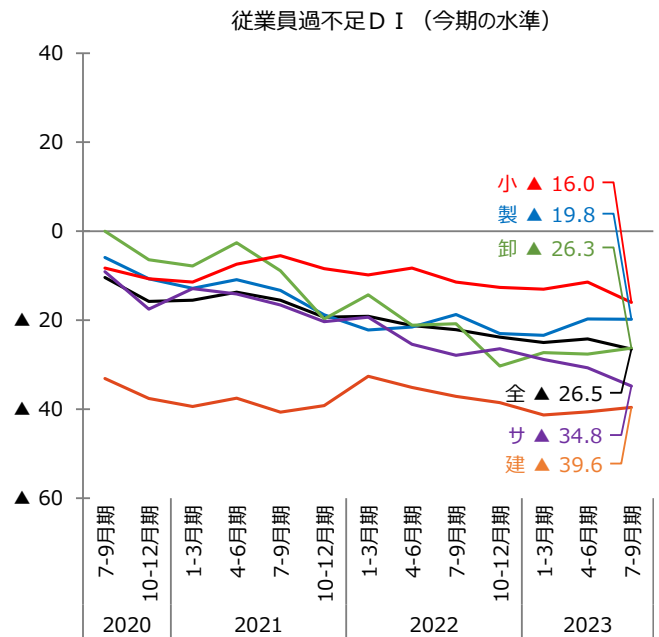
採算DIは、全産業で前期より0.6ポイント減の▲1.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、製造業、サービス業で上昇し、建設業、小売業、卸売業で低下した。



※今期の採算について「黒字」「収支トントン」「赤字」で質問

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より2.3ポイント減の▲26.5と2期ぶりに低下した。産業別にみると、卸売業、建設業で上昇し、小売業、サービス業、製造業で低下した。



※今期の従業員について「過剰」「適正」「不足」で質問

4. 四国の中小企業の声

	業況判断の背景	業種
現状	需要は増加しているものの、人件費の増加や電力単価アップ、機械部品の値上げの影響で、製造原価が増加したため、利益を確保するのが困難となっております。	製造業 玉軸受・ころ軸受製造業
	資材の価格上昇の影響により、工事の受注量は減少傾向にある。そのなかで、受注を確保するためには、他社との差別化を図らなくてはならず、熟練技術者や従業員数の確保が必要となるが、非常に難しい現状である。	建設業 鉄骨工事業
	値上げを行い、売上も回復傾向にあるが、全体的な経費増により、収益の方は、思いのほか、伸び悩む状況になっている。更なる物価上昇を見据えて、売価設定は、重要なポイントになってくる。	卸売業 その他の食料・飲料卸売業
	顧客の高齢化が進み、購買力の低下が見られる。販売単価は、商品の値上がりはあるものの、単価の高い商品は売れず、売上低下に繋がっている。	小売業 電気機械器具小売業（中古品を除く）
	少子化の影響もあり、若年層の労働力が不足しており、運転手、事務系社員の高齢化が進んでいる。軽油単価も、かなりの上昇が見込まれており、採算面では厳しくなっている。	サービス業 一般貨物自動車運送業（特別積合せ貨物運送業を除く）
見通し	引き続き、旺盛な需要により、売上高は順調な推移が期待されるが、それに対応するための材料確保も含めた、生産体制の整備が必要である。	製造業 清酒製造業
	残業規制対策や、賃金アップなど、人件費の増加が見込まれる。下請業者は、年々減少していると感じており、新規取引先の開拓が急務である。	建設業 一般土木建築工事業
	電気代、燃料代、送料、消耗備品の高騰により、かなり厳しくなりそう。	卸売業 生鮮魚介卸売業
	魚の仕入価格が上昇しており、顧客の購買頻度や客単価の低下を危惧している。利益を残しつつ、顧客の満足する売価設定が難しい。	小売業 鮮魚小売業
	消費者のニーズの多様化により、今まで以上の知識とスタッフのレベル向上が課題であり、新たなスタッフを採用することにより、社内環境を整える。	サービス業 他に分類されない専門サービス業

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

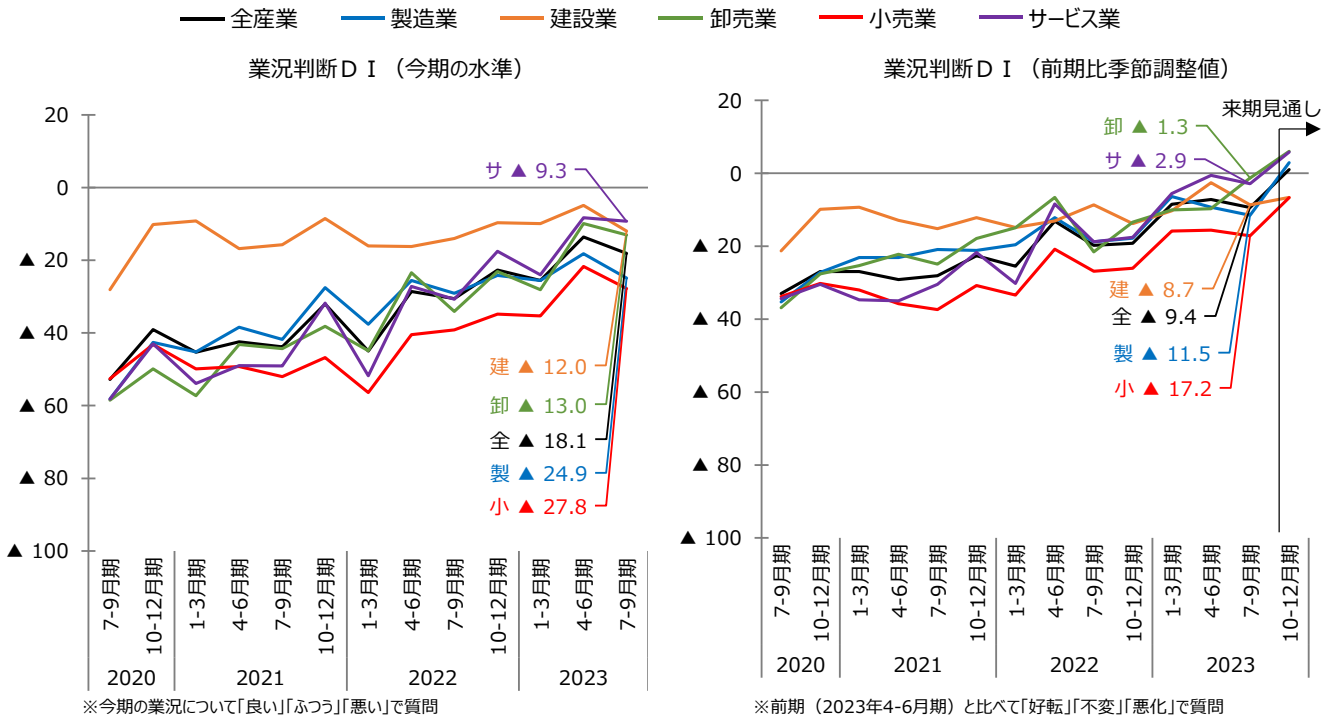
項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 九州・沖縄



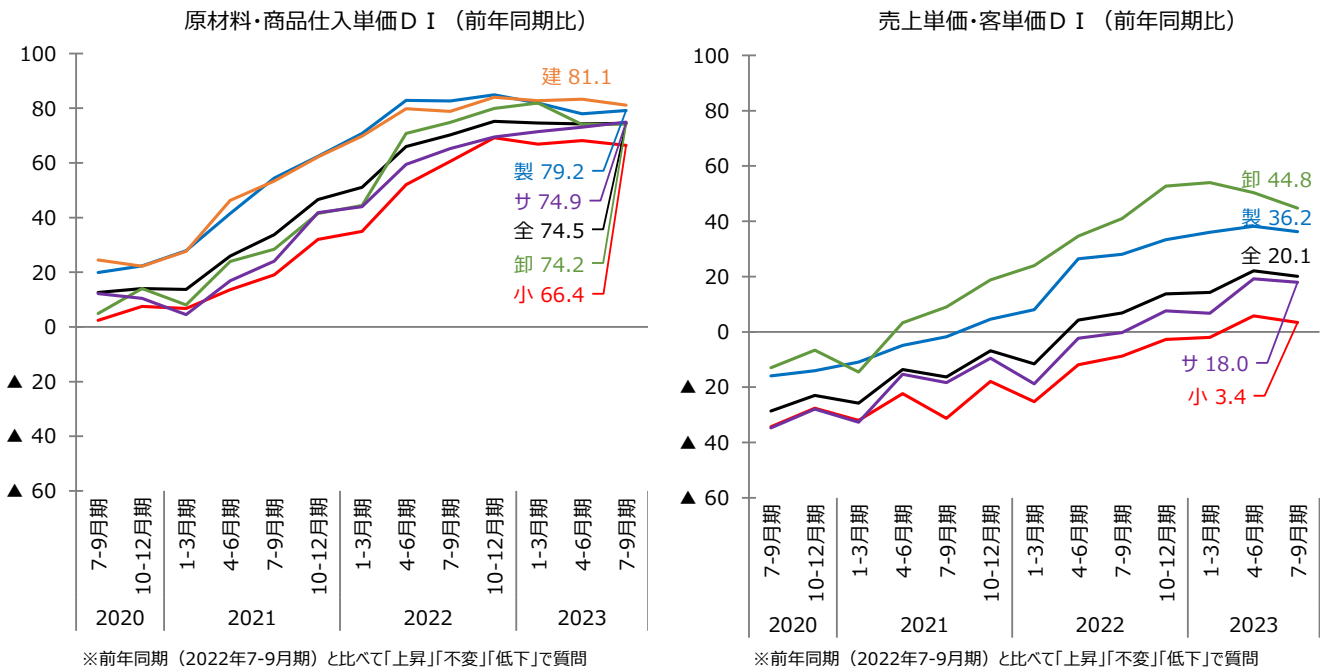
1. 業況感

九州・沖縄地域の中小企業の業況判断DI（今期の水準）は、全産業で前期（2023年4-6月期）より4.5ポイント減の▲18.1と2期ぶりに低下した。産業別にみると、5産業すべてで低下した。



2. 仕入単価・販売単価

原材料・商品仕入単価DIは、全産業で前期より0.2ポイント増の74.5と3期ぶりに上昇した。産業別にみると、サービス業、製造業、卸売業で上昇し、建設業、小売業で低下した。また、売上単価・客単価DIは、全産業で前期より2.0ポイント減の20.1と6期ぶりに低下した。産業別にみると、4産業すべてで低下した。



<調査概要> 調査時点は2023年9月1日、調査対象は中小企業基本法に定義する全国の中小企業

今期の調査対象企業数：18,830 有効回答企業数：18,017 有効回答率：95.7% うち、九州・沖縄：2,731企業

※本資料の集計対象の都道府県は、福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県です。

第173回 中小企業景況調査（2023年7-9月期） 九州・沖縄

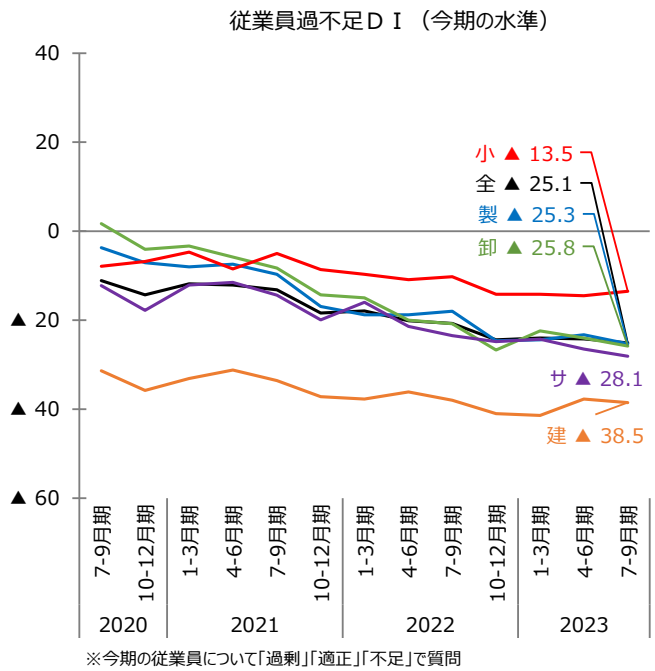
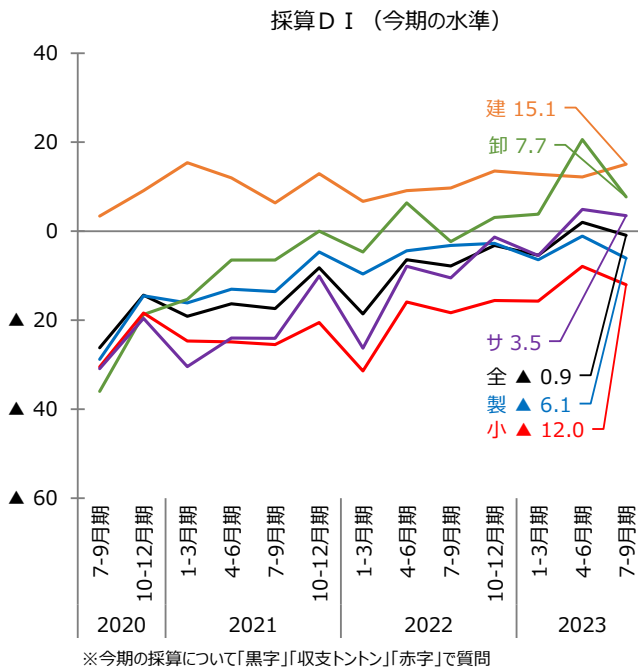


3. 採算

採算DIは、全産業で前期より2.9ポイント減の▲0.9と2期ぶりに低下した。産業別にみると、建設業で上昇し、卸売業、製造業、小売業、サービス業で低下した。

4. 従業員過不足

従業員過不足DIは、全産業で前期より0.9ポイント減の▲25.1と2期連続して低下した。産業別にみると、小売業で上昇、製造業、卸売業、サービス業、建設業で低下した。



4. 九州・沖縄の中小企業の声

業況判断の背景		業種
現状	事務用印刷物は、引き続き減少傾向にあり、当社としては、新たな受注を創り出す必要がある。デザイナーや、クリエイターの方々と新規の受注を目指して、様々な努力を重ねているが、少しずつ、成果は出てきていると思う。	製造業 オフセット印刷業(紙に対するもの)
	新規契約工事の引合いは、活発であるが、請負価格の低下が見受けられる。また、技術者の確保難によって、大規模な契約工事を請けることができない状況である。	建設業 木造建築工事業
	観光客も増えてきたため、前期と比較して、売上も増加傾向にある。また、相次ぐ商品の値上げに伴い、販売単価も上昇しているため、売上が好転している。	卸売業 米麦卸売業
	アフターコロナで、業績の回復を期待していたが、原材料費及び仕入コストの高騰で、利益が出しにくい状況となった。また、消費者が観光地に流出しており、当社のような地域密着の店舗への集客は、低下している。	小売業 菓子小売業(製造小売)
	仕入、人件費の増加が、経営を圧迫している。コロナが去り、売上も通常どおりになりつつあるものの、団体客、宴会利用の減少は避けられず、コロナで増大した借入金も心配である。人手不足が、更に深刻さを増している。	サービス業 旅館、ホテル
見通し	物価高騰が止まらず、先が見えない状況が続いている。従業員の給与アップと、パートさんの時給アップは、今後、必須となるため、より高いブランド力を持って、価値ある商品を作っていかなないと、生き残れない状況である。	製造業 清酒製造業
	完全週休2日制や、2024年問題(建設業、来年4月～)、給与のアップ等、経営環境にとっては厳しいが、乗り越えなければならない。発注金額のアップと、人件費を含む管理費を補う、生産性の向上に、期待と努力をしたい。	建設業 一般土木建築工事業
	中国向けの需要が停滞し、平年並の状況に落ち着いている。依然、メーカーから商品が入らず、十分な売上を作ることができていないうえに、最低賃金のインパクトが大きく、厳しい局面になっていくと思われる。	卸売業 陶磁器・ガラス器卸売業
	物価上昇に伴う生活防衛意識が強まっているように感じる。また、一方では、健康意識の高まりで、食の安心・安全に関心を持つ客も見受けられる。これらをうまく調和させていきたい。	小売業 百貨店、総合スーパー
ここ数年続いている、原材料の価格上昇に、歯止めがかからず、更に、燃料価格が史上最高額に迫っている。また、労働者の確保も、好転は見込めず、今後に不安が残る。2024年問題も控えており、課題は山積している。	サービス業 一般貨物自動車運送業(特別積合せ貨物運送業を除く)	

※中小企業景況調査の自由回答(フリーコメント)

項目を選択する方式ではなく、業況判断の背景についての感想や意見を自由に記入する方式であることから、各企業が抱える課題が表れている。